

入選

気づく「心」

福岡県 南薫小学校

5年 平川琉麻

僕には、小さい頃から優しく接してくれる近所のおじいちゃんがあります。そのおじいちゃんは、町のごみを拾ったり、草むしりをしたりしています。僕は、「なんで自分のごみじゃないのに拾ったりしているんだろう。」と思いました。不思議に思ったので、おじいちゃんに聞きました。

「なんで自分のごみじゃないのに、拾ったりしているんですか。」と聞くと、おじいちゃんは、「町をきれいにしたら、みんなが気持ちよくすごせるし、町がきれいになるから。」と言いました。僕は、心の中では、「何も変わらないでしょ。」とっていました。でも、そんな自分が情けなく感じて、おじいちゃんの家に行って、お手伝いを始めました。

おじいちゃんはさらに、町のごみを拾うだけではなく、ボランティア活動もやっているそうです。そのボランティア活動は、^{くしはらてんまんぐう}櫛原天満宮のごみ拾いや、枯れ葉集めなどだそうです。あるときは、わざわざ宮ノ陣まで、しめ縄の材料に使うわらを取りに行ったと聞き、ぼくは、それはすごいと思いました。

なので、「僕も手伝っていいですか。」と聞くと、おじいちゃんは笑顔になって、「いいよ。逆に、手伝ってくれる？」と言ってくれました。それで僕は、おじいちゃんといっしょに、ほうきで枯れ葉集めなどをし、さらには手ぶくろをはめて、そこら辺に落ちているカンなどを拾って、ふくろに入れました。

しばらくして周りを見ると、きれいになっていました。なので、もっときれいになるように、神社に「これからも、久留米の町がきれいになりますように。」とおねがいしました。僕は感じました。「自分も、どんどん気づく『心』が大きくなっていったんだ。」と、心の中で思いました。

最初は、お手伝いを「ほめられるためにやること」と思っていたのですが、どんどんお手伝いをしていくたびに、気づくことが多くなっている気がしました。

おじいちゃんは、生活面の方でもとても優しく、最近はずっとおじいちゃんちに行って、お部屋のかたづけなどを手伝ったりしています。特に夏などは、いっしょに水でっぼうであそんだり、おふろそうじをしたりしてます。たまには、いっしょにお出かけすることもあり、お兄ちゃんもいっしょに「ゆめタウン」に行ったり、お正月にはお年玉までくれたりします。

だから本当に感謝していて、これからも「もっともっと、お手伝いします。」とおじいちゃんに言うと、「お家でもお母さんや、お父さんなどのお手伝いもしたら、気づくことが増えるかもね。」と言われました。それから、お母さんやお父さんのお手伝いなどをしはじめると、本当に気づくことも増えたと、心もなんだかぼかぼかになって、気持ちよくなることがわかりました。

これからもずっと、おじいちゃんといっしょにすごしたり、お手伝いをしたりして、できる大人に成長して、おじいちゃんみたいになりたいと思います。